

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
		<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>				<b>3.2</b>		
<b>1 音環境</b>		<b>3.3</b>	0.15				<b>3.3</b>		
1.1 室内騒音レベル	—	<b>3.0</b>	0.40						
1.2 遮音		<b>3.8</b>	0.40						
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能:T-2以上。	<b>5.0</b>	0.60						
2 界壁遮音性能	—	<b>2.0</b>	0.40						
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—								
1.3 吸音	—	<b>3.0</b>	0.20						
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35				<b>2.6</b>		
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50						
1 室温	—	<b>3.0</b>	0.38						
2 外皮性能	—	<b>3.0</b>	0.25						
3 ゾーン別制御性	—	<b>3.0</b>	0.38						
2.2 湿度制御	—	<b>1.0</b>	0.20						
2.3 空調方式	—	<b>3.0</b>	0.30						
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.3</b>	0.25				<b>3.3</b>		
3.1 昼光利用		<b>4.2</b>	0.30						
1 昼光率	2.5% ≤ [昼光率]。	<b>5.0</b>	0.60						
2 方位別開口	—								
3 昼光利用設備	—	<b>3.0</b>	0.40						
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30						
1 昼光制御	—	<b>3.0</b>	1.00						
3.3 照度	—	<b>3.0</b>	0.15						
3.4 照明制御	—	<b>3.0</b>	0.25						
<b>4 空気質環境</b>		<b>4.1</b>	0.25				<b>4.1</b>		
4.1 発生源対策		<b>4.0</b>	0.50						
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	<b>4.0</b>	1.00						
4.2 換気		<b>3.6</b>	0.30						
1 換気量	—	<b>3.0</b>	0.33						
2 自然換気性能	窓が開閉可能な居室において、自然換気有効開口面積が居室床面積の1/15以上。	<b>5.0</b>	0.33						
3 取り入れ外気への配慮	—	<b>3.0</b>	0.33						
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20						
1 CO <sub>2</sub> の監視	—								
2 喫煙の制御	ビル全体の禁煙が確認されている。	<b>5.0</b>	1.00						
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>				<b>2.9</b>		
<b>1 機能性</b>		<b>2.4</b>	0.40				<b>2.4</b>		
1.1 機能性・使いやすさ		<b>1.6</b>	0.40						
1 広さ・収納性	—	<b>3.0</b>	0.33						
2 高度情報通信設備対応	—	<b>1.0</b>	0.33						
3 バリアフリー計画	—	<b>1.0</b>	0.33						
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30						
1 広さ感・景観	—	<b>3.0</b>	0.33						
2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置。	<b>5.0</b>	0.33						
3 内装計画	—	<b>1.0</b>	0.33						
1.3 維持管理		<b>3.0</b>	0.30						
1 維持管理に配慮した設計	—	<b>3.0</b>	0.50						
2 維持管理用機能の確保	—	<b>3.0</b>	0.50						
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.30				<b>3.1</b>		
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50						
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	—	<b>3.0</b>	0.80						
2 免震・制震・制振性能	—	<b>3.0</b>	0.20						
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.4</b>	0.30						
1 躯体材料の耐用年数	—	<b>3.0</b>	0.20						
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	<b>3.0</b>	0.20						
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	<b>3.0</b>	0.10						
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	<b>3.0</b>	0.10						
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管:水道用硬質塩化ビニルライン鋼管 汚水管・雑排水管:排水用耐火二層管。	<b>5.0</b>	0.20						
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	<b>3.0</b>	0.20						
2.4 信頼性		<b>3.0</b>	0.20						
1 空調・換気設備	—	<b>3.0</b>	0.20						
2 給排水・衛生設備	—	<b>3.0</b>	0.20						
3 電気設備	—	<b>3.0</b>	0.20						
4 機械・配管支持方法	—	<b>3.0</b>	0.20						
5 通信・情報設備	—	<b>3.0</b>	0.20						

3 対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上。	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3。	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり		-	3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	-	3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出	全国のパイロット工場から、各県の象徴となる植物を寄贈され、敷地内に植栽を行っている。	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.7
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1	建物外皮の熱負荷抑制	-	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用	-	3.0	0.13	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化	[BEIm]=0.00。太陽光発電設備を設置	5.0	0.63	-	-	5.0
4	効率的運用		3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマなどに加えて、省水型機器(擬音、節水型便器など)などを用いている。	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減		3.2	0.60	-	-	3.2
2.1	材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュアラン	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体+軽鉄+仕上材のデティールを採用している。	4.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1	消火剤	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率:55%	4.8	0.33	-	-	4.8
2	地域環境への配慮		2.7	0.33	-	-	2.7
2.1	大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	
2	振動	-	-	-	-	-	
3	悪臭	-	-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストを一部満たし、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たす。	4.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	3.0		○	○	-	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0		-	-	-	-	-	○	○	-	○	○	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	9.0		2.0	-	-	2.0	1.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	3.0		-	-	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		2.0	2.0	1.0	-	-	-	-	1.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		1.0	-	-	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標**

<b>Q1 室内環境</b>	
2.1.3 外皮性能	窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) - U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 - 住戸部分 窓システムU値 - 外皮UA値 - η AC - η AH -
3.1.1 昼光率	昼光率 3.3%
4.2.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積率 10.9%
<b>Q2 サービス性能</b>	
1.1.1 広さ・収納性	執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -
1.1.2 高度情報通信設備対応	コンセント容量 - VA/m <sup>2</sup>
1.2.1 広さ感・景観	天井高 - m
1.2.2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペース 61.1% レストスペース -
2.2.1 躯体材料の耐用年数	想定耐用年数 - 年
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	想定必要間隔 - 年
3.1.1 階高のゆとり	階高 4.7 m
3.1.2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 12.0%
3.2 荷重のゆとり	床荷重 - N/m <sup>2</sup>
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>	
1 生物資源の保全と創出	外構緑化指数 - 建物緑化指数 -
3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率 61% 水平投影面積率 - 地表面対策面積率 - 舗装面積率 -
<b>LR1 エネルギー</b>	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI/BPI <sub>m</sub> - 断熱等性能等級 対象外 相当
2 自然エネルギー利用	自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m <sup>2</sup> 採光を満たす教室数 - 採光を満たす住戸数 - 通風を満たす教室数 - 通風を満たす住戸数 -
3 設備システムの高効率化	BPI/BPI <sub>m</sub> 非住宅 - 住宅 - 太陽光 250.9kW 太陽熱等 - 蓄電池 -
<b>LR2 資源・マテリアル</b>	
1.2.1 雨水利用システム導入の有無	雨水利用率 -
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	特定調達品目 - エコマーク商品 再生クラッシュサーフェイス指定の特定品目等 -
2.5 持続可能な森林から産出された木材	使用比率 -
3.2.1 消火剤	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
3.2.2 発泡剤(断熱材等)	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
3.2.3 冷媒	オゾン層破壊係数(ODP) - 地球温暖化係数(GWP) -
<b>LR3 敷地外環境</b>	
2.2 温熱環境悪化の改善	見付面積比 - 隣棟間隔指標R <sub>w</sub> - 地表面対策面積率 - 屋根面対策面積率 - 外壁面対策面積率 - 見付面積S <sub>b</sub> - 卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub> - m 基準高さH <sub>b</sub> - m 緑地 m <sup>2</sup> 水面 m <sup>2</sup> 保水性対策面 m <sup>2</sup> 高反射対策面 m <sup>2</sup> 再帰性反射対策面 m <sup>2</sup>